

明日を担う若手職員を紹介します！

No.10 沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター 技師 菊地広伸さん

美しい県土づくり NEWS では、県土整備部の明日を担う若手職員への突撃 お仕事インタビューを掲載しています。若手職員の日頃の仕内容や、仕事に対する心意気などをご紹介しますので、ご期待ください。

第10回は、沿岸広域振興局土木部宮古土木センターの菊地技師です。

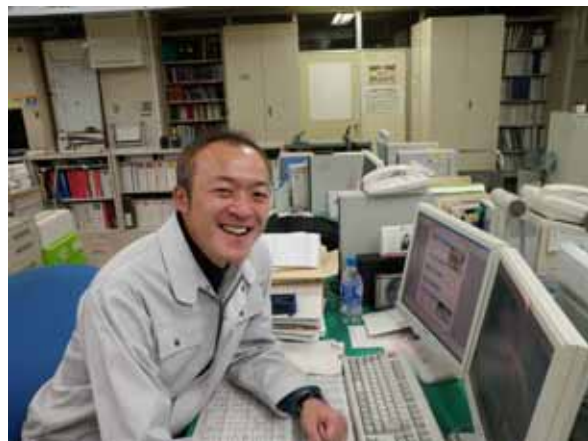
Q1 担当している仕事を教えてください

平成12年度入庁

遠野地方振興局土木部、県庁道路環境課で主に道路工事の設計監督業務や道路維持予算の管理、市町村道事業予算の取りまとめなどを担当してきました。

(現在)宮古土木センター4年目

主に港湾、海岸の維持管理業務や、設計、工事監督などを担当しています。



Q2 仕事の面白いところは何ですか？

採用から道路関係の業務を主に担当して来ましたが、宮古勤務になって港湾、海岸事業を初めて経験し、新たな分野を開拓することができました。特に宮古港では、ケーソン進水に昭和初期から活躍する函台を使用しているため、昔ながらの構造に先人の土木技術者としての知恵と心意気を感じることができます。また、現場や巡視に出る時、天気が良いと海がきれいで気分爽快です。

Q3 仕事の難しいところは何ですか？

海を生活の場としている人たちと、安全性や利便性の確保を目的とした施設整備のバランスをとることがとても難しく感じています。

また、管理している港湾施設の老朽化が著しいため、予想せぬ事態が起きることや、自分が生まれる前の設計書を探し出して対処方法を調べたりするのに苦労しています。

Q4 どんな職場ですか？

港湾海岸チームは総括主査と私の二人だけ。連絡調整もすぐに済みます。ただ6人分の机に2人だけというのも寂しいものですが、宮古土木センターは若手を中心に個性的なメンバーが多く、いろいろな話題が飛び交っており、飽きない職場です。

Q5 最後に一言(今後の抱負など)！

昨年は、諸事情により骨折してしまい、職場の皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。今年は骨折しないでがんばろうと思った矢先、新年早々の風浪災害…。骨よりも心が折れないように、今後とも頑張ります！！



港湾改修の工事現場にて。風を遮るものがないため、冬は極寒です。ちなみに、このインタビューに出るのは実は3回目です。他の2回はこっそりと写っているのを探してみてください！！